

備前市事務事業評価シート

事業の概要			根拠法令・例規等		
事業開始年度	昭和57年度～		下水道法 備前市公共下水道条例		
総合計画	大項目 基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問 合 先	担当課(室)	下水道課
	中項目 基本施策	01 生活しやすいまちづくり		職・氏名	管理係長 小川 勝巳
	小項目 施策	10 下水道		電 話	0869-66-9702
事務事業名		09 排水設備検査事務	このシート作成に要した時間		2.0 時間

事業の目的	
対 象 (誰・何に対して)	公共下水道、農業集落排水施設、漁業集落排水施設及び個別排水処理施設に接続して汚水を処理しようとする人。
目 的 (何のために)	排水設備指定工事店に対しては、適正な施工方法を指導し、市民に対しては、適正な維持管理方法の周知により、下水本管や処理場のトラブルを防ぎ、施設の維持管理費の増加を防ぐ。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	排水設備指定工事店に対しては、適正な施工方法を指導し、市民に対しては、適正な維持管理方法の周知により、下水本管や処理場のトラブルを防ぎ、施設の維持管理費の増加を防ぐ。

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細 事 業 名	事業の説明	優先度
	排水設備検査事務	下水道供用開始区域内の市民が、排水設備設置時に指定工事店をとおして行う申請書類の審査から工事完了の確認検査までの事務を行った。	

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	
	事業費	直接事業費	千円	0	0	0	
	必要人員	人件費	千円	0.26人	1,652	0.59人	3,452
	事業費	計	千円	1,652	3,452	4,128	
	財源	国 庫 支 出 金	千円				
		受 益 者 負 担 金	千円				
繰 入 金 (その他)		千円					
	一 般 財 源	千円	1,652	3,452	4,128		
	受 益 者 負 担 比 率	%	-	-	-		

結果指標	結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	
	結果指標量	説明	排水設備検査件数	109	190	183
	対 前 年 比	%	-	174.3%	96.3%	
	活 動 コ ス ト	円	1,652,000	3,452,000	4,128,000	
	単 位 当 た り コ ス ト		15,156	18,168	22,557	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
完工検査適合率	目標値(A)	100	100	100	100
	実績値(B)	98.2	91.6	90.7	到達目標値
	達成率(B/A)	98.20%	91.60%	90.70%	100
成果指標設定の考え方・式や説明					
処理場や下水道本管の保全には、個人施設である排水設備が正しく施工されていることが必要であるため、検査の適合率を成果指標とする。 $\text{検査適合率} = \frac{\text{検査適合格数}}{\text{検査数} - \text{不適合格数}} \div \text{排水設備検査数} \times 100 (\%) = \frac{183 - 17}{183} \div 183 \times 100 = 90.7$					

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の必要性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い い
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	B
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い い
	目的達成度	市民参画度	有効性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い い
		成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	B

進捗年度(H25年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	本年度は排水設備指定工事店の一括更新の年であるため、適正な排水設備の施工方法と維持管理方法を再度徹底する。						

総合評価	
今後も継続して、岡山県下水道協会と連携し、責任技術者の技術レベルの向上と排水設備設置基準の周知を図る一方で、既接続の市民に対しても維持管理方法の周知を図っていく。	総合評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い い
B	

平成26年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	完工検査適合率の更なる改善を目指すため、特殊な排水設備工事については事前協議を徹底する。また、引き続き責任技術者には適正な排水設備の施工方法を指導し、市民には適正な維持管理についてお願いしていく。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しながら

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

決算

Plan

Check

Do

Action